

2章 シンガポール国立大学(National University of Singapore)の大学間連携

1. 大学の概要と近年の動向

(1) 新学長の誕生

シンガポール国立大学は、工学部などの 14 学部、アジア研究所(Asia Research Institute)ほか 110 以上の研究機関が設置されている。2008 年現在、学生数(入学者数)は 30,350 人(学部生 23,330 人、大学院生 7,020 人)、教員 2,103 人、事務職員 1,900 人である。その内、留学生数は 10,511 人であり、実に学生数の 3 分の 1 が留学生である。卒業生数の内訳より、学士号(bachelor degrees)を取得した学部生は 5,691 人、大学院生は 2,404 人(Graduate Diplomas 295 人、修士号 1,778 人、博士号 331 人)である(NUS 2008a, p.6.)。

このように留学生数が多いシンガポール国立大学において、2009 年 1 月に、新学長タン・チャー・チョアン(Tan Chorh Chuan)が就任した。新学長は、「アジアの中心に位置し、未来に影響を及ぼす、リーディング・グローバル大学へ(Towards a global knowledge enterprise: A leading global university centred in Asia, influencing the future)」という新しいビジョンを掲げている。この新しいビジョンは、アジアのアイデンティティと国際的なアイデンティティをともに重要視するものであり、シンガポール国立大学は、今後のアジア版エラスムス計画の構築にも一役買うと考えられる。

以下は、国際関係オフィス(International Relations Office)のアジア・オーストラリア担当シニア・マネージャーである Eugene GOH 氏(Senior Manager (Asia/Australasia))に対して 2009 年 2 月 23 日に実施したインタビュー記録に基づき構成する。なお、インタビューの詳細は後述する。

(2) 大学の歴史と大学ランキング

シンガポール国立大学の歴史は、1905 年にキングエドワード 7 世医学カレッジ(King Edward VII Collee of Medicine)の設立に遡る。1928 年には、ブキット・ティマ(Bukit Timah)にラッフルズ・カレッジ(Raggles College)を設立した。これが現在のブキット・ティマキャンパスである。現在、ブキット・ティマキャンパスには、アジア研究所のほか、東アジア研究所(East Asian Institute)、南アジア研究所(Institute of South Asian Studies)、中東研究所(Middle East Institute)など、アジア地域研究の拠点の一つとして

機能している。

シンガポール国立大学という名前が誕生するのは、1980年にケント・リッジ・キャンパス (Kent Ridge Campus) が設立されてからのことである。さらに、2005年には、コンブレヒンシブステート大学を掲げた。

アジアの高等教育機関の中でも、シンガポール国立大学の各種高等教育ランキングは非常に高い。THES World University Ranking 2008では30位であり、これはアジア太平洋地域で第4位に位置する。特に、工学IT分野において高いランキングを誇っている。また、Newsweek Top 100 Global Universities 2006では31位であり、これはアジア太平洋地域では東京大学と京都大学に続いて第3位である。SJTU Academic Ranking of World Universities 2008では101-151位であり、この順位はアジア太平洋地域で9-16位である。

(3) 留学生の居住スペース問題と新キャンパス設置

既に3つのキャンパスが存在するが、2011年を目途に新しいキャンパスが設立される予定である。新キャンパスにはアジア・センターを設立する他、学生の居住スペースを確保する予定である。*Student Accommodation for undergraduates 2008/2009*によると、2009年現在、3000人の学生が居住できる寮がキャンパス内に設けられている。しかしながら、「シンガポール国立大学において、留学生の居住スペースを確保することは深刻な問題となっている」ため、新キャンパスが建設されている (Eugene GOH氏とのインタビュー)。

2. シンガポール国立大学における国際化の概要、留学生の動向

シンガポール国立大学は、4つの点から国際化に力を入れている。第1の点は International Recruitment、第2の点は、Global Pursuits for Students、第3の点は Global Partnership、第4の点は International Networking である。以下、本報告書の趣旨に鑑み説明する。

(1) 留学生のリクルートとグローバルな経験の推進

シンガポール国立大学では、国際的に留学生を募って受け入れているだけでなく、シンガポール出身の学生にもグローバルな経験を積むことを推進している。具体的には、学部生の50%が、7日以上のある種のグローバルな経験をすることを目標とし、2007-2008年には学部生の48%がこの目標を達成した。また、6ヶ月から1年の交換留学プログラムを、

学部生の 20%以上が達成することも目標としており、2007-2008 年に学部生の 19%が達成した。27 カ国 180 大学を対象とする交換留学プログラムを利用して 1,101 人の学生が留学する一方、海外からの留学生 1,229 人がシンガポール国立大学に留学した。GOH 氏によると、「現在は、これ以上の交換留学協定校の数を増やすよりは、現在の協定校との連携を深めることに力を入れている」ということである。

(2) グローバル・パートナーシップ

シンガポール国立大学における研究・教育上のグローバル・パートナーシップには、多国間あるいは 2 国間の連携がある。

アジア地域を対象とした多国間のプログラムとして、シンガポール・上海・ソウルという、それぞれ頭文字に S を冠する国や都市を拠点とする 3 つの大学によって実施される MBA プログラム Singapore-Shanghai-Seoul University Alliance(S3UA)が挙げられる。対象となる学生は、100 年以上の歴史ある 3 つの大学、すなわちシンガポール国立大学と復旦大学、高麗大学 (Korea University) で MBA を取得することができる。なお、詳細は後述する。

その他に、アジア地域を対象とする 2 国間のジョイント・プログラムとして、廈門大学 (Xiamen University) とのジョイント・ライフ・サイエンスラボ、上海大学とのジョイント・フィジックストラボが挙げられる。

(3) 国際ネットワーキング

シンガポール国立大学は、様々な国際的なネットワークに積極的に参加している。APRU、AWI、IARU、APAIE、AUN、U21、ASAIHL、ACU が主なネットワークである。

特に、環太平洋大学協会 (Association of Pacific Rim University、以下 APRU) との関係は深い。その事務局はシンガポール国立大学の敷地内にあり、アジア太平洋地域の大学連携に積極的なイニシアティブをとろうとしていることが伺える。APRU は設立以来、トップクラスの研究大学同士の協力関係を構築するために、様々なプロジェクトを実施してきた。殊に、前学長の Shin Choon Fong 氏は、APRU の運営委員会のメンバーとしてネットワークを構築する上でのリーダーシップを発揮してきた。APRU による APRU World Institute (AWI) が開催するワークショップにも積極的に参加している。

また、シンガポール国立大学は、ASEAN 大学ネットワーク (ASEAN University

Network、以下 AUN)にも参加し、AUN の財政的支援の下、学部生に AUN-NUS Study Awards という賞を授与している。この賞を授与された学生は、学費を免除されるだけでなく、生活費相当の給付を受けることができる。近年、この賞の名称は、Temasek Foundation Leadership Enrichment and Regional Networking という名称に変更された。賞の名称変更に伴い、より多くの財政的支援、サービス内容の充実が図られている。殊に、この賞を授与される学生は、コミュニティサービスへの参加が求められ、ローカルグループの障害者に対するボランティアワークなどに参加しなければならない。現在、30 人程度の学部生が受給している。

3. プログラムの概要と特徴

(1) アジアにおけるジョイント・プログラムの実施

シンガポール国立大学は、世界水準のアカデミック・エクセレンスを目指して、40 近くのジョイント・プログラムを実施している。ただし、その大半は、アメリカ合衆国、イギリス、オーストラリアなど、英語圏の大学を対象としている。

GOH 氏によると、「英語圏とのジョイント・プログラムが多くなる理由の一つとして、シンガポール国立大学に子どもを通わせる親の中に、子どもを英語圏に留学させられなかった親が多く、それらの親のニーズが高いことが挙げられる。また、英語圏の大学は、シンガポール国立大学とともに仕事をすることが、質の面でもカリキュラムなどの面でも、比較的容易である場合が多い。その一方、アジアの大学との連携は、様々な面で困難を伴う。ただし、新しい学長のビジョンからも分かるように今後はアジアにも注目している」と述べた。

ジョイント・プログラムの中には、上述した MBA プログラムだけでなく、多様なダブル・ディグリー・プログラムやジョイント・ディグリー・プログラムを開設している。2009 年現在、実施されているアジア各国とのジョイント・プログラムとして、人文社会科学部 (Faculty of Arts & Social Sciences) による北京大学とのジョイント MA プログラム (中国語)、工学部による、インド工科大学 (Indian Institute of Technology、以下 IIT Bombay) との先端工学 (advanced engineering materials) のジョイント・プログラムを開設している。

(2) NUS overseas colleges(NOC)—産学連携—

シンガポール国立大学では、産学連携にも力を入れている。NUS エンタープライズ (NUS Enterprise) を設立し、70 以上の企業と連携しつつ、NUS overseas colleges(NOC)を実施している。NOC のミッションは、「学生に、世界中の企業家精神に富み、学術的にリードするハブにおいて、教育と経験を与えること」である。

NOC は 30 歳以下の学生・院生を対象としている。NOC に選ばれた学生は派遣先の大学において、1 年間パートタイムの学生として所属する一方、当該大学の近隣企業などでフルタイムのインターンシップとして勤務する。フルタイム・インターンシップであり給与は支払われない。派遣先として、シリコンバレーとスタンフォード大学、バイオバレーとペンシルバニア大学、ストックホルムと王立工科学院の他に、北京と清華大学、上海と復旦大学、バンガロールとインド科学研究所を選ぶことができる。ただし、インドのみ院生レベルを対象としている。

(3) The S3 Asia MBA

S3UA は、NUS Business School とパートナー大学であった復旦大学（上海）、高麗大学（ソウル）という 3 つの大学間で共同運営する MBA のジョイント・プログラムである。

2005 年に 3 大学間のコロキウム (tri-university colloquium) の結成、2006 年に Seoul Declaration for Collaboration の調印を経て、2008 年より実施され始めた。3 カ国 3 大学のキャンパスを拠点として、アジアのグローバルビジネスリーダーの人材育成と研究交流を目的としている。その対象は、アジア太平洋地域でキャリア形成する予定の者や、アジアの企業とのビジネスを考えている者などであり、学士相当の教育歴と 2-3 年の職業歴が求められる。

具体的なプログラムでは、当該学生は、各大学において 1 セメスターずつ、3 つの大学で合計 3 セメスター分の単位を取得する。それぞれの単位を互換することが可能であり、最終的に 2 つの MBA を取得することとなる。2 つの MBA とは、出身大学の MBA と希望する大学の MBA である。授業料は、「4,950 シンガポールドル（以下、SD）と同等の授業料を各大学に支払う」こととなる（GOH 氏とのインタビューより）。ただし、復旦大学から MBA を取得することを希望する場合は、修士論文を書くために 1 セメスター多く登録しなければならないため、約 2,000 米ドル追加される。奨学金は、各国の教育省や企業等から各自が取得することとなる。GOH 氏によると、「2008 年に導入されたばかりのプログラム

であるため、全容は明らかではない」でない。しかしながら、今後のアジア地域連携に向けた取り組みとして注目に値する。

4. まとめと今後の課題—質保証のための取り組み、アジア地域連携に向けて—

シンガポール国立大学では、非常に多岐にわたる高等教育の国際化に関わるプログラムを実施しており、留学生数も多い。元来、アメリカ合衆国やイギリスなど英語圏とのプログラムを多く実施してきたが、アジア地域連携に寄与するプログラムとして NOC や S3AsiaMBA も実施されている。

また、シンガポール国立大学では、質保証のための取り組みとして、1セメスター3ヶ月ごとに、専門委員会が評価している。加えて、MOU を各大学と結ぶ際には適切に検討している。GOH 氏によると、「シンガポール国立大学にとって、パートナー大学が重要である。今後は、現在連携している大学との関係を密にするが、もはやパートナー大学を増やすつもりはない。現在のパートナー大学との新しいプログラムの開発を重要視する。日本では、早稲田大学、東京大学などが大事な大学である」と述べた。今後、シンガポール国立大学では、国際連携を量的に拡大するのではなく、質的に改善していくことが企図されている。

このような方針の下に今後の課題として、第 1 に、学生の増加に対応した教育内容・方法の充実が待たれること、第 2 に、居住スペースの確保が挙げられる。さらに、アジア地域連携のハブとして機能していくことが求められる。

【参考資料】

NUS (2005) , *Singapore's Global University*, June 2005.

NUS (2008a) , *State of the University 2008*.

NUS (2008b) , *Student Accommodation for undergraduates 2008/2009*.

【参考ウェブサイト】

National University of Singapore <http://www.nus.edu.sg/>

Asia Research Institute http://www.ari.nus.edu.sg/article_view.asp?id=1

NUS overseas colleges(NOC) <http://www.overseas.nus.edu.sg/>

【实地调查概要】

日時：2009年2月23日 10:00-11:30

対象者：Mr. Eugene GOH (Senior Manager (Asia/Australasia), International Relations Office, National University of Singapore)